

2000年

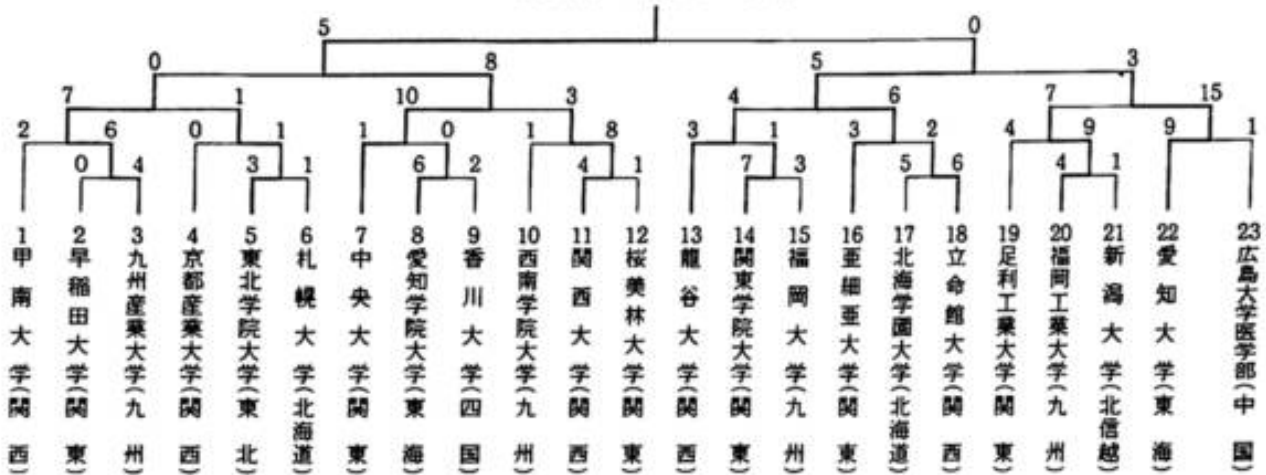
第52回全日本大学選抜準硬式野球選手権大会

会 期 平成12年 8月17日～8月22日

会 場 長崎県営野球場「ビッグNスタジアム」

長崎市宮かきどまり野球場

中央大学 (6年ぶり6度目)



(戦評) 初回から、九州産業大学が二点を先制、その裏に甲南大学も一点を取り、追いかけるが、四球が多くその後九州産業大学が点を追加し、甲南大学は投手を崩すことができずに敗退した。

甲	南	大	打	安	点	振	球
(6)	玉高尾	木橋	4	1	0	0	0
(7)	高尾	橋本	4	0	0	1	0
(5)	尾	崎	2	0	0	2	1
(9)	梶	本	3	1	1	1	0
(3)	久	米	3	1	1	0	0
H	高	嶋	1	0	0	1	0
(1)	下	東	3	1	0	2	0
H	柳	山	0	0	0	0	0
(8)	森	田	1	0	0	0	0
H	西	村	1	0	0	1	0
(2)	澤	村	3	0	0	0	0
(4)	石	井	3	0	0	0	0
計			29	4	2	8	1

九州産業大	打	安	点	振	球
(8)	3	2	0	0	1
3	0	0	0	0	0
(3)8	4	3	5	0	0
(5)	4	1	0	0	1
(7)	3	1	0	2	2
(9)	4	2	0	0	1
(6)	4	0	0	2	1
(2)	3	0	1	1	2
(1)	3	0	0	3	1
(4)	4	0	0	0	1
計	32	9	6	8	10

二回戦
 ◎八月十九日 市宮かきどまり野球場 (第一試合)
 九州産業大 2 0 0 1 0 2 0 1 0
 甲南大 1 0 0 0 0 1 0 0 0 0
 2 6
 (九) 川尻一義宮
 (甲) 下東・柳山・石井
 ☆三塁打 嵩(九)
 ☆二塁打 秀島(九)

春季リーグ戦

<p>◎四月三日 住之江公園球場</p> <p>神外大 000010200 甲南大 11040020x (外) 横江―藤田 (甲) 下東・内藤―石井 ☆二塁打 横江(外) ☆三塁打 石岡(外) 捉本2・尾崎2・森田・西村(甲)</p>	<p>◎四月五日 舞洲ベイスボールスタジアム</p> <p>和 大 010000000 甲南大 00000210x (和) 阿倍―片岡 (甲) 下東―尾崎・石井</p>	<p>◎四月八日 グリーンスタジアムサブ球場</p> <p>神商大 000100000 甲南大 01001310x (商) 安高―新矢 (甲) 内藤・玉木―石井 ☆三塁打 尾崎・久次米・森田(甲) ☆二塁打 安高(商)、石井(甲)</p>	<p>◎四月十日 尼崎記念公園野球場</p> <p>大経大 000100000 甲南大 1001003x (経) 川久保・川崎―大原 (甲) 下東―石井 ☆二塁打 屋嘉部(経)</p>	<p>◎四月十二日 尼崎記念公園野球場</p> <p>近 大 001010000 甲南大 11000020x (近) 馬場―折尾 (甲) 下東―石井 ☆三塁打 加藤(近)、下東(甲)</p>	<p>◎四月十四日 尼崎記念公園野球場</p> <p>甲南大 000010014 神外大 000000000 (甲) 内藤・柳山・玉木―石井 (外) 横江―石岡 ☆二塁打 尾崎・西村(甲)</p>	<p>◎四月十八日 尼崎記念公園野球場</p> <p>甲南大 4201201 和 大 00000000 (甲) 下東・柳山―石井 (和) 竹田・伊藤―片岡 ☆三塁打 玉木・梶本(甲) ☆二塁打 梶本・森田・下東2・澤村(甲)</p>	<p>◎四月二十一日 尼崎記念公園野球場</p> <p>甲南大 2120120 神商大 00000000 (甲) 柳山・内藤―石井 (商) 安高―新矢 ☆本塁打 玉木(甲) ☆三塁打 森田(甲) ☆二塁打 石井・高橋(甲)</p>	<p>◎四月二十五日 グリーンスタジアム神戸</p> <p>甲南大 0010100 大経大 0000010 (甲) 下東―石井 (経) 原・川久保―大原 ☆三塁打 玉木(甲) ☆二塁打 尾崎(甲)、楳木・米谷(経)</p>	<p>◎四月二十八日 久宝寺緑地野球場</p> <p>甲南大 0502030 近 大 1000200 (甲) 下東―石井 (近) 馬場・近藤・青藤―折尾 ☆本塁打 下東(甲) ☆三塁打 玉木(甲) ☆二塁打 楳本(甲)</p>
---	--	---	--	---	--	--	---	---	---

2000年春季リーグ戦結果報告

順位	校名	甲南大	近大	大経大	神商大	神外大	和 大	勝 敗	勝点
優勝	甲南大	△	○	○	○	○	○	10勝	20
2	近大	●	△	○	○	○	○	8勝2敗	16
3	大経大	●	●	△	○	○	○	6勝4敗	12
4	神商大	●	●	●	△	○	○	3勝7敗	6
4	神外大	●	●	●	●	△	○	3勝7敗	6
6	和 大	●	●	●	●	●	△	10敗	0

春季リーグ戦優勝！

優勝 甲南大学 (2季連続32度目)

個人賞	最高殊勲選手	下東 俊之(甲)
	最優秀投手	下東 俊之(甲)
	首位打者	下川原和博(経)
	打率	○・五〇〇
打撃十傑	1 下川原和博(経)	34 17
	2 高橋 優(甲)	19 9
	3 玉木 健一(甲)	34 16
	4 折尾 篤司(近)	35 15
	5 松下 智紀(近)	33 14
	6 尾崎 真哉(甲)	30 12
	7 阪本 大典(近)	28 11
	8 梶本健太郎(甲)	36 14
	9 下東 俊之(甲)	20 7
	10 澤田 将史(経)	24 8
	森島 茂晶(経)	24 8
	米谷 和敏(経)	24 8
ベストナイン	投手	下東 俊之(甲)
	捕手	折尾 篤司(近)
	一塁手	梶本健太郎(甲)
	二塁手	阪本 大典(近)
	三塁手	尾崎 真哉(甲)
	遊撃手	玉木 健一(甲)
	外野手	下川原和博(経)
"	"	高橋 優(甲)
"	"	松下 智紀(近)

秋季リーグ戦

◎九月一日 尼崎記念公園
 和歌大 0000000000
 甲南大 001010100x
 (和) 伊藤・阿倍―片岡
 (甲) 柳山―石井
 ☆二塁打 西川(和)、玉木2(甲)

◎九月四日 尼崎記念公園
 神外大 000000000
 甲南大 00300004x
 (外) 山本―片桐
 (甲) 柳山―石井
 ☆三塁打 石井(甲)
 ☆二塁打 山本(外)、橋本(甲)

◎九月七日 尼崎記念公園
 神商大 0000000
 甲南大 11008x
 (神) 橋川―嶋岡
 (甲) 柳山―石井
 ☆三塁打 玉木・西村・柳山(甲)
 ☆二塁打 平井(甲)

◎十月一日 尼崎記念公園
 大経大 00010000
 甲南大 031005x
 (経) 船井・川久保―入谷
 (甲) 柳山―石井
 ☆二塁打 久次米(甲)

◎十月四日 久宝寺緑地
 近畿大 003000001
 甲南大 001000001
 (近) 近藤―松下
 (甲) 柳山―石井
 ☆三塁打 小佐々(近)、石井(甲)
 ☆二塁打 小佐々・松下・近藤(近)
 橋本(甲)

◎十月六日 尼崎記念公園
 甲南大 26001000
 和歌大 00000000
 (甲) 柳山・内藤―石井
 (和) 阿部・伊藤―尾崎
 ☆三塁打 橋本・石井(甲)
 ☆二塁打 石井(甲)

◎十月十一日 舞洲ベースボールスタジアム
 甲南大 1600020
 神外大 0000000
 (甲) 柳山・内藤・玉木―石井
 (外) 小野・遠藤―片桐
 ☆二塁打 菅野(甲)

◎十月十六日 住之江公園
 甲南大 1004110
 神商大 0000000
 (甲) 内藤・十河―石井
 (商) 橋川―嶋岡
 ☆三塁打 平井・西村・十河(甲)

◎十月二十五日 住之江公園
 甲南大 0146002
 大経大 0011000
 (甲) 柳山・内藤―石井
 (経) 船井・島田・下川原―入谷・後藤
 ☆本塁打 石井・玉木(甲)
 ☆二塁打 石井・久次米・柳山(甲)

◎十月二十七日 尼崎記念公園
 甲南大 120000101
 近畿大 00000114x
 (甲) 柳山―石井
 (近) 近藤―松下
 ☆三塁打 荒田(近)
 ☆二塁打 橋本・西村(甲)

2000年度秋季リーグ戦結果報告

順位	校名	近畿大	甲南大	大経大	和歌大	神商大	神外大	勝	敗	勝点
優勝	近畿大		○○	●○	○○	○○	○○	9勝1敗		18
2	甲南大	●●		○○	○○	○○	○○	8勝2敗		16
3	大経大	○●	●●		○○	○○	○○	7勝3敗		14
4	和歌大	●●	●●	●●		○○	○△	3勝6敗1分		6
5	神商大	●●	●●	●●	●●		○○	2勝8敗		4
6	神外大	●●	●●	●●	●△	●●		9敗1分		0

優勝 近畿大学 (三季ぶり19度目)

個人賞	打撃十傑	首位打者	打率
最高殊勲選手 小佐々 武(近)	1 船井 真介(経)	船井 真介(経)	○・四八〇
最優秀投手 近藤 卓人(近)	2 小野 恵太(外)		○・四七六
	3 平井 隆之(甲)		○・四六八
	4 小西 宏幸(近)		○・四五四
	5 田中 利樹(近)		○・四三二
	6 小佐々 武(近)		○・四二四
	7 松下 智紀(近)		○・四〇六
	8 下川原和博(経)		○・三九三
	9 清水 直也(経)		○・三八七
ベストナイン	9 石井 孝治(甲)		○・三八七
投手 近藤 卓人(近)			
捕手 松下 智紀(近)			
一塁手 小西 宏幸(近)			
二塁手 橋本 純一(甲)			
三塁手 加藤 文昭(近)			
遊撃手 田中 利樹(近)			
外野手 平井 隆之(甲)			
” 小佐々 武(近)			
” 清水 直也(経)			

2000年

思い出



平成11年・秋季リーグ戦優勝！



平成12年・春季リーグ戦優勝！

2000年

思い出



平成11年夏・鳥取合宿

平成10年春・指宿合宿



大会出場記念 MEMORY OF SPORTS 1997

平成12年夏・最後の六アイ練習！



俺たちのエース！！

2000年

思い出



平成11年冬・オーストラリア遠征



平成12年夏・祝50周年！



平成12年冬・タイ遠征

2000年

思い出

「50年から70年、そして100年へ」

2001（平成13）年卒業
高橋 優

20年前に現役だった私は、創部50年目のチームの主将として、「甲球50th」に文章を載せてもらいました。今、それを読み返し当時のことを思い出してみると、若気の至りといえますか、まだ社会の厳しさだとか世の中のことが全然わかっていなかったと思います。しかし、歳をとって忘れかけていた、いや忘れてはいけないあの頃の熱い気持ちを思い出させてくれました。もっと目の前のことに一生懸命だったあの頃の自分。そして好きな野球を夢中で気の合う仲間たちとすることができたとても幸せな時間でした。もうあの頃には戻れませんが、今の自分があるのは大学4年間の準硬式野球部での経験とその時の仲間がいたからだ改めて感じました。

先輩、ありがとうございました。1回生秋には野球の神様が微笑んでくれ、新人王をとらせてもらいました。そのあと調子に乗ってしまいましたが、先輩方がとても厳しく指導して下さったお陰で、主将を任せてもらえるようになりました。

後輩たちもありがとう。ミーティングが少し長かったり、遅刻したらずっと走らせたり、サインミスをしたら…、今思うと厳しすぎたかもしれませんが、ついてきてくれて本当にありがとう。

そして何より同期の仲間たち。同じ目的に向かい、同じ時間を過ごしたのでその関係は私にとって、かけがえのないものになりました。今回もこの投稿を依頼された時、代表で私だけのコメントでいいのだろうか…、他の同期の今の思いも知りたいと思いメンバーに相談したところ、全員がすぐにコメントを寄せてくれました。卒業して20年以上経ち、それぞれの今があるのに、これってすごいことだと思います。コロナが終息したら、久しぶりにみんなで会いたいです。

このように、自分たちが素晴らしい環境で野球をさせてもらい、野球を通してたくさんのご縁を得ることができたのは、言うまでもありませんがOBの方々が繋いでこられた伝統があったからです。当時はOB会のご縁はよく分かっていなかったもので、感謝を伝えることがあまりできていませんでした。本当にありがとうございました。特に直接指導していただいた故高島さんと吉岡さん。私たちのことを信用していただき、何も否定することなく様々なサポートやアドバイスをもらい、たくさん相談にもものっていただきました。そして普通ではできないようなたくさんのご縁をさせてもらいました。本当にありがとうございました。

甲南大学準硬式野球部がこれからも多くの学生にとって成長できる場であってほしいと思います。そして、OBとして私も恩返しができるよう尽力して参りたいと思います。

2000年

思い出

「大学時代の思い出」

2001（平成13）年卒業
岩瀬（旧姓森田）大介

甲南大学準硬式野球部創部70周年おめでとうございます。

私は2001年卒業ですので、卒業して20年が経ちますが、当時のことはよく覚えております。一番の思い出としては、私達が最上級生のときに全国大会に出場を決めた龍谷大学との試合です。

私達の代は下東くんという絶対的なエースがおり、4回生時の春のリーグ戦ではほとんど失点せず全勝優勝し、関西大会出場を決めました。当時はこの調子なら、よっぽどくじ運が悪くなければ全国大会には行けるだろうと思っていました。しかし1回戦の相手が関西でうちに勝てるとしたらここだけであろうと思っていた立命館大学で、下東君の好投も報われず敗れてしまい、外野手として出場していた私としても下東くんには申し訳ないと感じておりました。

そして敗者復活戦を勝ち上がり、勝てば全国大会出場が決まる龍谷大学戦を迎えたのですが、この試合は珍しく下東君が失点をする展開だったのですがこちらも終盤に得点を重ね、確か6-3で勝利したと記憶しております。この試合をよく覚えている理由としては、いつもピッチャーに助けられてばかりの展開だったのが、苦しみながらも3点に抑え攻撃陣も6得点したということでチーム一丸となった試合展開で全国大会出場を決めることができ、非常に嬉しかったからだと思います。

また、卒業し20年経ちましたが心から甲南大学準硬式野球部に所属することができて本当に良かったと思っています。なぜなら今でも同級生とはいつでも全員が連絡を取れる関係が続いているからです。社会人になって色々な方たちとの出会いや別れがありましたが、家族以外でこのような関係でいられる方はほほいないですし、ほとんどの方達がそうではないのでしょうか。当時はあまりそんなことは考えていませんでしたが、今になって思うのは二十歳を超えて利害関係がない中で、自分達の意味で真剣に一つのことを共有するというのは、非常に貴重なことで、そこには絆が生まれるということなのでしょう。このような貴重な経験をさせていただいた甲南大学準硬式野球部には感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも80周年、100周年と続いていくことを祈っております。

2000年

思い出

「過去・現在・未来への想い」

2001（平成13）年卒業
尾崎 真哉

準硬式野球部在籍中に創部50周年を迎えた当時、OB・OGの皆様方が築かれた歴史や実績に触れ、改めて甲南大学準硬式野球部の素晴らしさを実感いたしました。そして、私たちの代でも歴史や実績を少しでも築けたのではないかと考えております。

1997年にスポーツ推薦で入学・入部し、まず高校時代との野球に対する考え方や取り組みの違いから少し物足りなさを感じることもございました。今までの野球に対する縦横の考えだけではなく、違う角度からの考えもあることを諸先輩方や仲間から学び、自分自身が成長するため、好きな野球を通じて、何をすれば良いのか挑戦と失敗を繰り返し成長できた大学4年間であったと思います。

在籍中は、全日本選手権2回、清瀬杯1回、9ブロック（関西選抜）3回、オーストラリア・タイ遠征など経験してまいりました。またプロ野球や社会人、台湾、中国など現役に拘りプレーできる環境を探し、プロ野球のテスト生として練習参加しましたが、大きな壁を越えることができませんでした。このような様々な経験ができたのも仲間と準硬式野球部に出会えたためと感謝しております。

数々の試合をしてドラマが生まれておりますが、同期選手6名・マネージャー4名の仲間・先輩・後輩とともに過ごした六甲アイランドグラウンドでの練習や合宿などの何気ない部活動が、かけがえのない思い出です。また新チーム時には選手16名と少数精鋭？の中、試行錯誤しながら意識改革を行い、春季リーグ戦全勝優勝・全日本選手権出場するチームを副主将として築けた経験が、現在指導者としての糧となっております。

大学卒業後、コーチとして19年間 現役選手・マネージャーと一緒に頂点を目指し歩んでまいりました。2019年から監督として、『全日 優勝』という新たな歴史と実績をチーム一丸となり築き上げるよう、選手・マネージャーが社会人に向け成長できる環境を作るよう取り組んでおります。

ここでの出会いにあらためて感謝するとともに、今後80年、100年と更なる発展に指導者として、OBとして尽力して参ります。

思い出

「私のエンジンが積み込まれた4年間」

2001（平成13）年卒

高嶋 健次

輝かしい歴史と伝統をもつ甲南大学体育会準硬式野球部が、ここに創部70周年の記念すべき慶節を迎えられ、心を込めて祝意を表します。

大学1回生の4月に初めて参加した練習のアップのストレッチでペアを組んで頂いたのが当時4回生の藤本祐一郎さんでした。『軟式と違ってきたんか？準硬やでここは。間違えて来たこと一生忘れへんぞ。』と笑いながら言われた事を、25年経った今もハッキリ覚えています。一浪して大学に入学したものの、日々の学生生活に何か物足りなさを感じていた私にとって、準硬に入部してからの日々には、尊敬する多くの先輩方との出会いがあり、沢山の学びがありました。OB会の現在代表幹事を務めておられる大西さんや、当時4回生で主務の東野さんからは、自身が主務になった際の立ち居振る舞いの仕方と社会人としてどういうスタートを切るべきかというお手本にさせて頂きました。

また、副キャプテンの神田さんや平井さんからは、グラウンド内外でチームという組織をどうやって支えるか、時には宴会部長として、リーグ戦や合宿を乗り切った時に、皆が驚く、とんでもない面白いことを考えて、チームの輪を更に強固なものにする為のアプローチの仕方を学ばせて頂きました。指宿合宿の宴会部長デビューでの初コールの時の皆さんの反応は今も懐かしく覚えています。

そして、センターの一番遠い所から、常に控えキャッチャーの私に大きな声を掛け続け、自主トレにも誘っていただいた日置さんからは、私が先輩となった時に後輩にどう関わるかというあるべき形を教えて頂きました。

ここには書ききれない位、その他の先輩方にも本当に沢山お世話になりましたし、同期9人と、かわいい後輩達にも本当に恵まれました。

野球では、3回生の時には秋季リーグ戦優勝と、個人で初のベストナインを授賞させていただきました。時の運とはいえ、一生忘れられない宝物を頂きました。

指導者の皆様には、指導に留まらず、チーム運営のサポート、物心両面で多くの支援をして頂きました。故高島監督の御人脈と行動力で、関西選抜でのオーストラリア遠征と、チーム単独でのタイ遠征を実現して頂き、そこに主務兼スコアラーとして帯同させて頂きました。一大学の野球部員では中々味わうことが出来ない貴重な体験を積めた事に心から感謝しております。

前OB会会長で、当時コーチを務めていただいた吉岡さんから、私に掛けて頂いた言葉と褒めて頂いた事は心に残っていて、今も私の軸になっています。野球が下手くそだったので、吉岡さんに褒めていただいた回数が少なかったのかもしれませんが、逆に今はそれが良かったと思います。（次ページに続く）

2000年

思い出

総じて私は野球が下手くそだからこそ、常に努力をしなければならず、上手くいかないことが多かったのですが、その分得ることがあったと今になって思うことが出来ます。

就職して、事業として野球用品を取り扱う会社に勤めていますが、学生時代に「もっと野球が上手になりたい、もっと試合に出たい」という渴望感の様なものが私のエンジンとして積み込まれたのだと思います。今は、そのエンジンから、仕事に対するエネルギーが生まれていると感じています。

社会人になってからは、関西遠征と一緒に帯同させていただいた現西武ライオンズ1軍投手コーチで同志社大学準硬式野球部出身の青木勇人氏に、野球メーカーとして関わらせて頂いています。皆様ご存知の通り、西武ライオンズ、広島カープでプレーをされた後、カープの3連覇を支えられた青木コーチの人材育成術には本当に感服致します。

また、OB会で現在会長を務めておられる南山さんが、前職の代表として、約500名のメーカーや関係会社の幹部の方が多く集まる方針発表会の場で、責任ある立場でスピーチをされ、野球は感動を与えるという話を聞かせて頂きました。その際に、私は甲南準硬式野球部OBの後輩であることを心から誇りに思うと共に、野球を通したご縁に感謝したことを覚えております。

『藤本さん、私は準硬に入部して、本当に良かったです。』

伝統ある甲南大学体育会準硬式野球部の現役選手、マネージャーの皆様が、野球部での活動を通して精進されること、また社会人として良いスタートを切れることに大いなる期待を寄せ、ここに改めて熱い祝福のエールをお送り致します。

最後になりましたが、現チームの尾崎真哉監督、玉木健一コーチを始め首脳陣の皆様方の後方支援を積極的に行って参りたいと存じます。

2000年

思い出

「掛け替えなきベースボールメモリー」

2001（平成13）年卒業

澤村直基

甲南大学体育会準硬式野球部 創部70周年、誠におめでとうございます。

私が部に在籍した時がちょうど創部50周年にあたり、あの頃からはや20年が経過。時の流れの早さに驚くとともに、在籍当時のことをとても懐かしく思う次第です。当時の自分は技術、プレーよりも、寧ろチームの雰囲気盛り上げることに注力しておりました。（どれくらい貢献できていたか？は皆さんのご想像にお任せしますが・・・）

自身が引退するまでの1年間は、特に印象深く残っております。高橋君が主将となり、基礎トレーニングの徹底や、野球ノート活用による、各部員とのコミュニケーション深化と課題の共有等々。これまでにはなかった取組に、初めは違和感を覚えました。が、苦しい練習を皆が共に考え、乗り越えてきたことで、チームの団結力とメンバーの精神力は確実に強化され、春季リーグ戦の全勝優勝と全国大会出場を果たすことができた、と一員として実感しておりました。これまでの野球経験上、最も貴重な体験となりました。

また、当時の取組は、自身の仕事において「原点回帰する」教訓として活かしております。今後、部員の皆さんが部の活動を通じて心技体を磨き、魅力的な社会の一員として飛躍されることと、甲南大学体育会準硬式野球部の益々のご発展を心より祈念いたしております。

2000年

思い出

「ご縁に感謝、甲南大学準硬式野球部」

2001（平成13）年卒業

吉田（旧姓下東）俊之

甲南大学準硬式野球部、創部70周年おめでとうございます。70年の歴史の中で私は50周年目に携わりました下東俊之です。現在の名前は吉田俊之となり婿養子として岐阜の地に住んでおります。1997（H.9）年にセレクションに合格をいただき部に入部させていただきました。今でもその時に打った右中間への痛烈な2塁打を覚えています（笑）。ちなみにもう一名のセレクション同級生は現監督の尾崎くんです。同じ和歌山出身、この地で出会いました。

入部当初より当時の先輩方にもすぐに可愛がっていただいたことを思い出します。すぐにこの部の雰囲気（あたたかさ）を肌で感じることができました。現役時代、私なりに後輩にもそれは継承していたつもりです。

現役時代は今思えば反省ばかりです。高校時代みたく毎日練習するわけでもなく自分の中で甘えがかなりあったのを思い出します。世の中そんな甘くないですよ。しかし4回生になると少しずつ考えが変わってきました。全日で優勝をしないと。4年間ともに過ごした同級生達と4回生の時に監督に復帰いただいた高島監督と。チームメイトと。現実には、全日出場はできましたが、果たせませんでした。最後の試合後、泣いたのを思い出しました（笑）。

部の先生方、社会人になった今、本当に思います。ありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。ご縁というのは現在の私にとっても何よりも大切にしている事で現在の仕事においてもご縁を大切に重んじてます。準硬式野球部入部のご縁、同級生達とこの部で出会ったご縁、当時の監督さんコーチ、先生方とのご縁、先輩、後輩とのご縁。人生において全てが繋がってます。私は部を引退後も社会人としての就職にあたり現役続行を希望しプロ、社会人を当時目指しましたがダメでした。やはり世の中そんな甘くない。そんな時にまたご縁で大建工業という会社に就職することもできました。準硬式野球部の大先輩で播磨さんとのご縁がきっかけでした。大建工業で10年勤めその後取引先の岐阜の会社経営様の婿養子となり現在に至ります。名前も変わり、勤め先も変わりましたが現在でも繋がっており感謝感謝です。

甲南大学準硬式野球部で学んだことはもう一つあります。文武両道です。今思えば当時できていなかった自分にもう一度言ってあげたいですね。現在の私の子供には「大切だよ」と生意気にも伝えております。

現役の諸君、ぜひとも全日で優勝をする日を楽しみにしています。